

[029] 九州大学東洋史論集表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/25799>

出版情報：九州大学東洋史論集. 29, 2001-04-30. 九州大学文学部東洋史研究会
バージョン：
権利関係：

編集後記

新たな世紀を迎え、皆様には益々ご清栄のことと拝察いたします。『東洋史論集』二九号をお届けいたしました。昨年度は越智先生が久留米大学におられた折に執筆された御論考とこれまでの先生の御著作に未収録のものを収載した御著書を発刊することが出来ました（越智重明著『中国古代の政治と社会』、中国書店）。また、先生の芸能関係の御遺稿を集めた著作も同じく中国書店よりまもなく刊行されます。川勝先生は最近、従来の市鎮の研究を集められた大著を著され（『明清江南市鎮社会史研究』、汲古書院）、また、琉球や日本にも目配りをされた東アジアの国際関係を論じられた近作も発表されました（『日本近世と東アジア世界』、吉川弘文館）。今年はもう一冊の大著を発刊されるともうかがっておりますが、研究室を託された我々も日野先生、越智先生、川勝先生のつくられた伝統をさらに高めるべく志を新たにしているところです。

本号には富田、片山、中島氏の論考を掲載しました。

富田氏の論考は氏の年来のご研究である尚書体制についての論を集大成せんとする意欲作です。片山氏の論考は従来十分には論じられてこなかった論題について広い視野から網羅的に論じた骨太い論考です。中島氏は昨年度より川勝先生の後任として九州大学に赴任されました。本論集に掲載した論考は氏の新天地での第一作目ともいふべき意欲作です。

内田、高両氏は現在大学院の博士後期課程に在学中の学生です。内田氏の論考は近年翻訳がでた満文檔案を利用して従来手薄であった科場案をめぐる問題を論じたものです。高氏の論考は一昨年の本論集に掲載した台運の乾隆朝以降にかけての展開を詳究した論考です。よろしくご検討下さい。

なお、本号から新しい試みとして、当会の活動状況を彙報として掲載することにしました。こうした試みを今後とも発展させて行きたいと思っております。また、同学諸兄姉に本誌へ御論考などを掲載されたいとご希望される方がおられましたら、左記の本会まで電話、又はお手紙にてお問い合わせ下さい。

九州大学東洋史論集
第二十九号

平成十三年四月二十五日印刷

平成十三年四月三十日 発行

編集兼 九州大学文学部

発行者 東洋史研究会

福岡市東区箱崎

六一一九一一

電話〇九三六四二二三八〇

代表者 川本芳昭

印刷所 城島印刷有限公司

福岡市中央区白金

二一九一六

電話〇九三五三二七二〇二